

## 平成 29 年度第 3 回大潟コミュニティ・スクール委員会 議事録

開催日時 場所	進行・記録	出席者・欠席者
平成30年 2月23日 (金) 18:30～20:00  大潟町中学校 会議室	進行 中野 博史  記録 長谷川和彦	出席委員 ・長澤 英夫(会長) ・高橋 道代(副会長) ・小林 律子(事務局長) ・平澤 栄一 ・山崎 晶代 ・土屋 美枝 ・小山 彰 ・磯貝 一子 ・井部 孝一 ・柳澤 恵子 ・熊木 勉 ・塚田 克俊 ・渡辺 章雄 ・佐野 謙一 ・中野 英康 ・竹田 一昭 事務局 ・中野 博史 ・長谷川和彦 オブザーバー ・坂森 弘明 ・合志 淳 ・南雲 民人 ・内藤 隆 ・武田 雅人 ・山本 明子
議事内容 1 開会  2 会長あいさつ  3 小・中校長あいさつ  4 議事 (議長は長澤会長) (1) 小学校からの取組状況の説明 ①学校の様子 ②学校評価報告 ③夢・志チャレンジ事業評価報告 ④平成30年度の年間行事計画 (2) 中学校からの取組状況の説明 ①学校の様子 ②学校評価報告 ③夢・志チャレンジ事業評価報告 ④平成30年度の年間行事計画 (3) 質疑 ○10月7日の100kmマラソンでは、中学校からボランティアの生徒をお願いしたい。		

→生徒に呼び掛け、ボランティアを募りたい。

○10月31日の文化事業は、群馬県交響楽団を呼んでオーレンプラザで実施する予定。

→保護者や地域にもお知らせする予定である。

○中学校の40周年記念事業で歌った「いつかきっと」を、節目の度に歌ってほしい。

→今後も歌っていききたい。

(4) 小中共同課題について意見交換「家庭学習と視聴時間について」

○大潟の子どもを育てる会では、2年間メディアに関する講演会を行った。メディアの視聴時間が守れないのは、子どもだけの問題か？保護者の問題か？学校はよくやっていると思う。大潟区の1つの課題である。

○学校評価で、学力が少しずつ伸びているという報告を聞くと、町民としてうれしい。

○メディア視聴は、重要な課題である。毎年メディアの視聴時間を守ることは、小中共に低い。学校はアンケートの結果を示すが、保護者においてその受け止めに温度差があるのではないか。講演会を開いても関係者が3割を占める。PTA役員と連携した取組をしてはどうか。

○メディアとは、スマホとゲーム、パソコン、パソコンにつながるものである。昔と状況が違う。重要性を認識している人は講演会に参加している。子どもを家に置いておくためにスマホやゲームを与えている親もいるのではないか。PTAで話し合う必要がある。何回か学習の場を設けた方がよい。

○スマホをかまっているとあっという間に時間が過ぎる。調べ学習に使っている場合もあるので、90分という線引きは難しい。親が集まって情報交換をした方がよい。

○親が教えないといけないのではないか。子どもとコミュニケーションをとるのが一番の愛情である。私は、子どもと一緒に夕食を食べることを大事にしてきた。真面目な子どもはどこでストレス解消をするのか。子どもはスマホを欲しがすが、我慢させることも必要ではないか。

○小学校では、宿題をがんばって出しているが、もっと抑えてもよい。

○以前は、家庭学習時間を「学年×10分+10分」としてきたが、ただやればよいのではなく、何のための学習なのか職員で話し合っている。子どもがやる気になるしかけが必要だ。

○学力は標準以上なのに、家庭学習が低いというのは、どういう状況なのか？

○中学生になると、部活がある。でも、体力がないので、家庭学習まで余力がなく、家庭学習の時間が少なくなっているようだ。中学校では、自分で考え、計画的に取り組む生徒を目指しているが、その場になって慌てて取り組む生徒もいる。

○家庭学習の中に塾の時間も入っているのか？

○塾の時間はカウントに入れていない。放課後のバス待ちの時間や放課後児童クラブでの学習時間はカウントする。

○小学校では、「学年×10分+10分」は、今はやっていない。あくまでも目安。本当は、読書の時間も塾の時間も家庭学習時間に入れるべきだと思う。要は、学習習慣を付けることが大

事でこちらにシフトしていくのが大事である。

○本当に目標をもって家庭学習を行っているのは1割程度しかいないのではないか。

(5) その他

○大雪に伴う公共交通機関の運休で、登下校の対応が大変だった。マイクロバスの手配や保護者、地域のみなさんの協力があった。スクールバスを増やしたり、区でマイクロバスを所有したりできるとよい。

5 事務連絡

- ・30年度もCS委員会の事務局は中学校とする。
- ・新委員には、5月頃に1回目の日程をお知らせする。

6 閉会のあいさつ（高橋副会長）